



～地域とともにある学校をめざして～

# 鯀コミ

R5 CS通信No.12 R5.11.22



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

## 鯀ヶ沢中学校で「働く人との対話集会」



11月7日(火)、県教育支援プラットフォーム 西北地区実行委員会と県総合社会教育センターが主催する「働く人との対話集会」がありました。

職業人と学生が、対話を通して子供達のキャリア発達を促し、地域や企業との理解を深めることが目的で、鯀ヶ沢中学校、稲垣中学校、大戸瀬中学校の第2学年生徒約80名が、農家、医師、公務員など、様々な職業人講師から仕事の説明を聞いたり、質問をしたりしました。

この事業には、学校運営協議会委員も参加し、少人数での「対話」を通して、生徒がよりよい生き方について考える様子を参観し、見識を深めました。

「働く人との対話集会」は、町が示したふるさと学習五つの柱のうち、「どんな自分になりたいか」を基にした学習カリキュラムで、鯀ヶ沢中学校では、今後も継続して実施するとのことでした。

## 舞戸小学校第4学年で手話教室開催



令和4年に「鯀ヶ沢町手話言語条例」が施行され、町では、手話の理解を深めるとともに、ろう者が手話をしやすい環境を整えることで、お互いを尊重し、支え合い、安心して暮らすことができる地域共生社会の実現を目指すことにしました。

それを受けて、10月24日(火)町ほけん福祉課が主催する手話教室がありました。講師は、西北五ろうあ協会の成田先生です。

はじめに、ほけん福祉課の丸山さんから、手話教室の進め方について説明がありました。

丸山さんは、手話を使いながら説明したので、子どもたちの学習に、さらに効果がありました。

講師の成田さんは、「聞こえない人とのコミュニケーション方法」「あいさつの手話表現」「自己紹介の手話表現」をわかりやすく説明しました。

手話教室は、次回も計画されており、文字や数字、家族のことを手話で表現する予定です。

## 西海小3・4年ふるさと学習「鯀ヶ沢の文化財」



11月7日(火)、町の歴史に興味を持ち、もっと郷土のことを知りたいという気持ちを育てることを目的に、西海小第3・4学年で、ふるさと学習「鯀ヶ沢町の文化財を知ろう」がありました。

講師は、町総括学芸員の中田書矢氏で、この日は、松源寺、日照田高倉神社等を訪ねました。

松源寺の鐘つき門は、下が石で、上が木で造られためずらしい門で、青森県にただ一つしかない門であることを強調していました。

日照田高倉神社のイチョウは、樹齢800年の大木で、たくさん下がっている「ちち」という気根に特徴があることを解説していました。